

エドワールとキャロリーヌ (1951)

EDOUARD ET CAROLINE

メディア 映画

ジャンル ロマン스 コメディ

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 85分

初公開日 1992/04/25

公開情報 シネセゾン

【解説】

ベッケルの監督7作目は、若い夫婦のすれ違いを軽快なタッチで描き、大ヒットを記録したコメディ。D・ジュランとA・ヴェルノンの共演は、当時の恋愛もの喜劇のベスト・カップルである。パリのとある質素なアパート。駆け出しのピアニスト、エドワードは妻キャロリーヌの叔父クロードのお膳立てで、社交界に腕前を披露することになり、妻ともども支度をしていたが、タキシードのチョッキが見当たらない。妻は従兄のアランに貸してもらおうと電話。これが夫は気に入らない。ようやく説き伏せ、夫にチョッキを借りに出かけさせた妻はドレスを最新流行の形にリフォーム。またこれが夫のご機嫌を損ねる。大胆すぎる、というのだ。立腹して一人夜会に向かう夫。部屋に残る妻を従兄が訪ねて二人揃って会場に現われたとき、夫婦の緊張は否が応にも高まるが……。サロンの風俗を背景に若い男女が痴話げんかを繰り広げるだけの話を、場の転換と時間のずれを巧妙に劇に盛り込んでサスペンスを生む。姉妹編は“RUE DE L'ESTRAPADE” (52)。

【クレジット】

監督	ジャック・ベッケル	Jacques Becker
脚本	アネット・ヴァドマン	Annette Wademant
撮影	ロベール・ルフェーヴル	Robert Lefehvre
音楽	ジャン＝ジャック・グリュエネンヴァルト	Jean-Jacques Grünenwald
出演	アンヌ・ヴェルノン	Anne Vernon
	ダニエル・ジェラン	Daniel Gelin
	ジャック・フランソワ	Jacques Francois
	エリナ・ラブルデット	Elina Labourdette
	ベティ・ストックフェルド	